

魚沼から行く尾瀬ルートPRソングについて

尾瀬ルート活性化委員会、うおぬまレトロ化計画では、県、魚沼市及び関係機関との協働により、魚沼から行く尾瀬ルートのPR、活性化に取り組んでいます。

※PRソングの制作は一般財団法人新潟県建設技術センターのR7新潟県地域活性化に関する研究助成事業による助成を受けています

活動・支援組織等

【尾瀬ルート活性化委員会】

平成18年発足、温泉組合、県、魚沼市等で構成され、尾瀬の玄関口である魚沼から行く尾瀬ルートや湯之谷温泉郷をキーとして誘客推進を図る団体。

尾瀬への新潟県からの独自ルートとなる「小沢平登山道の整備」、玄関口である湯之谷温泉郷の地域ブランド向上のための「開高めし」開発、ルート上に残る尾瀬三郎伝説の登場人物「尾瀬三郎」をモチーフとした「ザ・サブローズ」等による広報活動に取り組んでいる。



ザ・サブローズ

【うおぬまレトロ化計画】

数万点に及ぶ県内最大規模のレトロコレクターである桜井治氏のコレクションを誘客に活用することを目的とした市民グループ。

桜井氏は少年時より玩具や映画ポスター等の収集を始め、収集した玩具や映画ポスターなどのコレクションを誘客コンテンツに活用し活動している。コレクションは玩具コレクターで知られる北原照久鑑定士からも絶賛されている。魚沼市内の魚沼レトロ商店を中心に展示を行っており、桜井氏の方針によりコレクションは触れて、聞いて、読んで、遊ぶことができる、全国でも稀有なレトロ体験が可能な施設となっている。



魚沼レトロ商店

【新潟県地域づくりサポートチーム】

地域の団体活動を支援する取組（県地域政策課所管）であり、県魚沼地域振興局と魚沼市の職員で構成されるチーム。令和5年度よりうおぬまレトロ化計画と大湯地区へのサポートを実施している。

うおぬまレトロ化計画の組織の自走化、大湯地区の活性化支援（ザ・サブローズの活動支援を含む）を実施。



サポートチーム活動の様子

【尾瀬三郎伝説】

魚沼市湯之谷地域で語り継がれている平安時代の公家「尾瀬三郎藤原房利」に関する伝説。尾瀬三郎が若くして夫である二条天皇に先立たれた美しい皇妃を巡り、時の権力者である平清盛と争ったが、策謀によって都を追われ、現在の魚沼市湯之谷地区にたどり着き、尾瀬沼と尾瀬ヶ原を発見したことにより、尾瀬の地名の由来となったというもの。※尾瀬の地名の由来には諸説あり



銀山船着き場近くに建つ
尾瀬三郎像

作詞・作曲

【星野裕矢氏】

新潟県魚沼市出身。魚沼市PRアンバサダー、シンガーソングライター。

2014年に安全地帯のギタリストである矢萩渉、武沢侑昂と共にバンド『EZO』を結成。

『宇宙戦艦ヤマト2202 愛の戦士たち』第四章「天命篇」エンディング主題歌「CRIMSON RED」歌唱。



公式Xプロフィール画像